東静岡地区のまちづくりの考え方

1. 東静岡地区の新たなまちづくりに向けて

○まちづくりの考え方

<静岡市のまちづくり>

人口減少だけでなく、経済の停滞や地球温暖化、自然災害の頻発化・激甚化、人工知能の急速な進化など、今、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。このような中で、本市は今後 50 年先まで見据えつつ、急速に進展しているデータやデジタル技術を柔軟かつ機動的に取り入れるなど、社会経済環境の大きな変化に的確に適応できるようなまちづくりが必要であると考えています。

今までの 50 年間と、これからの 50 年間は、世の中が大きく変わることが想定されます。 1 つの例として、都市交通については、自動運転化の進展により、現在の交通体系は大きく変わることが想定されます。本市は、「大きく時代が変わる」ことをきちんと認識し、これからの 50 年先までを視野に入れ、未来につながるまちづくりへと再設計(リ・デザイン)する必要があると考えています。

また、まちづくりは、市役所が単独で行うものではなく、社会全体の活動が活発になり、**様々な利益や幸せが生まれるような「共創」を促進**することが重要です。地域づくりの主役は「人」であり「社会」です。市民、地域社会、企業などと共に創り、一緒に取り組んでみようと思ってもらえるようなまちづくりを進めていきます。

< 東静岡地区のまちづくり>

東静岡地区は、JRと静岡鉄道が近接している場所であり、本市の南北・東西、葵・駿河・清水の3区の 連携という点でも**重要な地理的位置**にあります。

JR東静岡駅周辺では、アリーナ(計画中)や新県立中央図書館(令和9年度完成予定)の整備が予定され、北口は「スポーツ」、南口は「文化と教育」と新しい文化の中心となる、まちづくりの絶好の時機を迎えています。

北口のアリーナ、南口の新県立中央図書館や既存施設のグランシップなどの**施設(ハード**)と、そこで提供される**サービス(ソフト)が連携することで、新しい価値**をもたらします。

この新たな価値を上手に活用し、東静岡地区に**人が集まる仕組み**を作るとともに、**利便性が高く、安心・安全で住みやすい環境づくり**を進めることが重要だと考えています。

○東静岡地区の将来像とまちづくりの重点テーマ

<東静岡地区の将来像>

「新たな文化・スポーツの拠点づくり」と「快適で住みやすい住環境づくり」

~最先端の文化・スポーツ・国際交流等による新たな交流・滞在の創出と、 安心して住み続けられる住環境が共存する、新時代のまちづくり~

< 東静岡地区のまちづくりの重点テーマ>

- ① 【文化・スポーツ】文化・スポーツの拠点としてのまちの新たな価値づくり
- JR東静岡駅北口の**アリーナ(計画中**)や、南口の新県立中央図書館(令和 9 年度完成予定)整備を 活かしたまちづくり
- 既存のグランシップを含めた各ハード施設の連携と、施設を活用した「**人が集まる仕組みづくり**|

②【若者・子ども】若者や子どもが夢や希望を持てるまちへの転換

- **若者が「住み続けたい、訪れたい**」、進学や就職で一度静岡市を離れても、**帰ってきたくなる**まちづくり
- 市外・県外の方が「**住んでみたい、訪れてみたい**」と思えるまちづくり(交流人口の創出)
- 低未利用地等を活用した、**子どもの遊び場**等の創出
- 関係機関・団体と連携し、**若者や子ども達**を対象とした魅力の創出

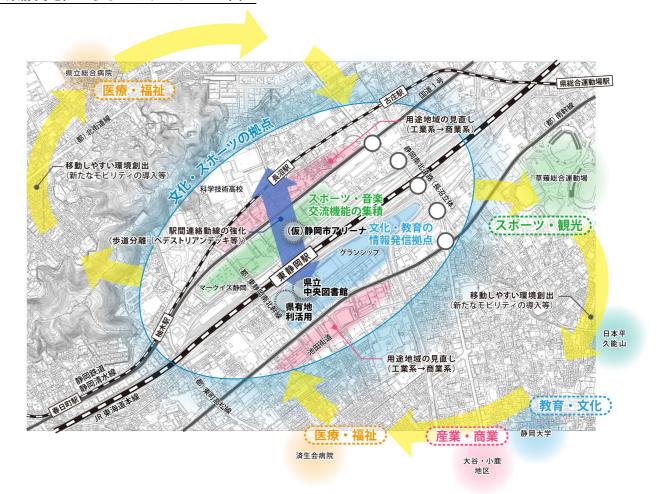
③【都市交通】誰もが移動しやすいまちづくり

- JR東静岡駅~静岡鉄道長沼駅間の連絡動線強化(歩行者と車の動線分離:ペデストリアンデッキの整備等)
- 公共交通や自転車、新たなモビリティの検討も含めた、**誰もが移動しやすい**まちづくり(バリアフリー、 ユニバーサルデザイン、公共交通の利用促進、自転車の走行空間や駐輪スペースの確保等)
- **安全・安心で住みやすい**まちづくり(新たな交通体系を活用した、医療・福祉施設や、静岡大学等の 教育・研究施設、大谷・小鹿地区の産業・商業施設との連携)

④【土地利用】多様な人々が訪れたくなる魅力的な空間づくり

- 多様な人々が思い思いに過ごすことができる、**人中心で居心地が良く歩きたくなる**空間づくり
- 広場や公園、道路、公開空地など**公共的空間の設えや使い方**の改善
- 都市計画に定める**地域地区(用途地域や高度地区等)の見直し**(国道1号沿道、南幹線沿道等の東静岡地区の周辺に分布する工業系用途地域の見直し(商業系用途地域への変更))

<東静岡地区のまちづくりのイメージ図>



2. 東静岡地区のまちづくりを考える前提条件

(1) 東静岡地区について

- ・東静岡地区は、静岡市中心市街地から 4 km 程度離れた JR 東静岡駅を中心とした地区であり、日本平から 谷津山へ広がる、緑に囲まれた豊かな環境に位置しています。地区内には JR 東静岡駅と静岡鉄道長沼駅が 存在し、様々な文教施設が集積し、幹線道路沿いには大規模店舗や小売店舗が立ち並ぶなど、多くの都市 機能を備え、交通の便の良い立地条件が質の高い集合住宅を集積させています。また、区画整理事業によって整備された公共空間についても修景に配慮されている地域となっています。
- ・東静岡地区では、アリーナや県立中央図書館などの整備が予定されており、この機会を活かしたまちづく りの検討が求められています。

■東静岡地区の位置図



(2) 市域全域から見る東静岡地区の位置づけ

1) 第4次静岡市総合計画(令和5年3月策定/静岡市)

- ・第4次静岡市総合計画では、まちづくりの目標として「『世界に輝く静岡』の実現」を掲げ、「市民(ひと)が輝く|「都市(まち)が輝く|の2つの要素を兼ね備えたまちの形成を目指しています。
- ・東静岡地区は「草薙・東静岡副都心」に位置づけられ、スポーツや文化芸術の集積を活かし、それぞれ の地域において賑わいの創出に取り組むこととしています。
- ・また東静岡副都心は、商業、業務、医療等の都市機能を持ち、コンパクトシティの核としての役割を果た すとともに、地域と一体となったまちづくりを進め、公民共創で新たな価値を想像し都市の魅力を向上 することが求められています。

2) 静岡市都市計画マスタープラン (平成 28年3月策定/静岡市)

- ・静岡市都市計画マスタープランでは、まちづくりの基本理念として「人との交流がまちをつくり、人との つながりがまちを育てる、時代に合ったまちづくり」を掲げ、静岡市が目指す将来都市構造として「集約 連携型都市構造」を掲げています。
- ・東静岡駅周辺は「都市拠点」に位置づけられ、定住人口の誘導、文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の都市機能の集積を図り、静岡・清水駅周辺とは異なる魅力とにぎわいのある都市空間の形成と、交流人口の増加を図ることとしています。
- ・また東静岡駅周辺は、集約型都市構造の実現に向けた重点地区「東静岡副都心地区」に位置づけられ、 まちづくりの方針として「快適で住みやすいまちづくりの推進」や「安心・安全のまちづくりの推進」、 「利便性の高い新たなにぎわい拠点の形成」を掲げています。

■集約連携型都市構造図



3)静岡市立地適正化計画(令和6年3月改定/静岡市)

- ・立地適正化計画では、都市計画マスタープランにおける集約連携型都市構造の実現に向けた、都市機能や居住の適正な誘導を図るため方針やその実現に向けた取組を掲げています。
- ・東静岡駅周辺地区は「都市機能誘導区域」に位置づけられ、「教育・文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の機能強化」や「商業・業務機能の強化」、「子育て環境等、周辺居住者の生活利便性の充実」を拠点形成の方向性とし、誘導施設として以下の施設を位置付けています。
 - <東静岡駅周辺地区の誘導施設>
 - ・子育て支援施設
- ・大学
- ・専修学校

- 大規模ホール
- ・図書館
- <東静岡駅周辺地区の立地想定施設>
- ・買回品大型専門店
- ・最寄品総合スーパー
- · 都市型産業施設
- 宿泊施設

東韓國外周辺地区 静林市駅 静林市駅 静林市駅 海外市場場 東京和駅

■東静岡駅周辺地区の都市機能誘導区域

4) "ふじのくに"の「文化力」を活かした地域づくり基本構想

(平成27年3月/東静岡周辺地区の整備に関する有識者会議、静岡県)

・静岡県を代表する「学術、文化・芸術、スポーツ」が集積する東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域の「場の力」の最大化を図り、その玄関口となる東静岡地区への「文化力の拠点」を形成を推進するため、当地域の「場の力」を高める地域づくりや東静岡駅周辺の「文化とスポーツの殿堂」にふさわしいたたずまいを生み出すまちづくり、駅南口県有地の整備に見込む「文化力の拠点」整備に向けた取組の考え方が示されています。

■東静岡駅周辺

のまちづくり

(出典:静岡県 HP)



(3) アリーナ及び県立中央図書館の整備計画について

1) アリーナについて

①アリーナの必要性

- ・静岡市では、人口減少・少子高齢化が課題となる中、まちの魅力向上、文化振興、地域経済の活性化な ど、社会への大きな波及効果が見込まれるアリーナの実現を目指しています。
- ・アリーナは、本市における既往の施設では実現できなかった、最高峰のプロスポーツや大規模コンサートなど、多彩なエンタメイベントが開催可能な施設であり、公と民の協働事業による整備・運営を想定しています。

②アリーナ予定地

・JR 東静岡駅に隣接するなど、アクセス性に優れ、県内外の広域からの集客が見込まれる「JR 東静岡駅北口市有地(約 2.4ha)」をアリーナ予定地として選定しました。



③アリーナが地域に果たす役割

- ・アリーナが地域に果たす役割として、まちづくりや新たなスポーツ・文化の価値づくり、防災施設としての安心・安全の提供、及び直接的な経済効果などが期待できます。
- ■アリーナが地域に果たす役割

新たなまちづくりの中心

✓ 東静岡地区の発展の核となる施設として、まちの 魅力を向上させ、シビックプライドを醸成する

✓ 東静岡駅北口にこれまで以上に人が集い、街が 発展することで新たな民間投資を促進し、定住・ 交流人口の増加が期待できる

選ばれる アリーナ

新たな文化の醸成・発信

- ✓ 「文化・スポーツの殿堂」として、市民に新たな スポーツ・エンターテイメントコンテンツを提供・ 集積する拠点となる
- ✓ 域内外の交流を促進し、次世代の文化発信・ 交流拠点として、様々なヒト・サービス・情報が 結びつく

東静岡の 新たなシンボル まちづくり計画

柔軟性· 多様性

施設の

機能

新たなスポーツ・ エンタメの聖地

集うアリーナ 静岡が世界に誇る 次世代型アリーナ

防災

アリーナ

経済的・社会的 効果への期待

持続可能な

新たな安心・安全を地域に提供

防災拠点:

復旧支援

✓ 大規模災害時には、広い屋内空間を活用した 支援物資の集積に加え、避難場所として滞在 スペースや飲食提供の役割を担う防災拠点となる

✓ 公共施設として、備蓄倉庫や非常用電源を 備えることで、地域へ安心・安全をもたらし、まちの 価値向上に寄与する

地域のための アリーナ

新たな地域活性化の起爆剤

- ✓ アリーナの初期投資額、約266億円に対し、 建設3年及び運営30年の雇用者所得誘発額 を約1,439億円と試算
- ✓ アリーナ整備に伴い、建設時に約358億円、 開業後の興行・イベント開催により、運営期間 30年で約4,879億円、計約5,237億円 (ベースケース)の経済波及効果が見込まれる

④アリーナの規模や想定施設

- ・プロスポーツや大規模コンサートを誘致可能な選ばれる施設として、最大収容数 10,000 人、客席数 8,000 席規模を想定しています。
- ・魅力の高いまちをつくるため、アリーナ単体でなく、ホテル等の付帯施設を含めたレイアウトが可能と 想定され、複合施設としての価値向上が期待できます。

■アリーナの規模





想定施設	アリーナ延床面積	最大収容数	客席数
メインアリーナ、サブアリーナ、 コンコース、VIPルーム・ラウンジ、 各種諸室、備品倉庫、外構・ 広場、駐車場等	約25,000㎡	10,000人 (音楽興行時等)	8,000席 (固定席+可動席)

■アリーナ配置イメージ

JR 東静岡駅側







※国土交通省 HP(https://plateauview.mlit.go.ip/)を加工して作成

※現時点で想定する一案のイメージであり、配置は今後事業者との協議により決定する

Confidential - All Rights Reserved - EY Strategy and Consulting Co., Ltd. 2023

2) 県立中央図書館について

- ・県立中央図書館は、施設の老朽化や狭隘化の問題が深刻化し、その運営方法について長期にわたり懸案と なっていましたが、平成29年度に東静岡駅南口県有地に全館を移転整備する方針が決定し、令和9年度 の完成を目標に取組を推進しています。
- ・上記の方針を受けて県教育委員会では、新図書館の基本理念及び整備方針を集約し、令和2年までに基本 構想・基本計画・整備計画をとりまとめました。
- ・令和5年度には基本設計が行われ、新図書館の整備イメージが公開されました。
- ■新図書館の外観・内観イメージ(出典:静岡県 HP)





■新図書館の基本計画(出典:静岡県 HP)

新県立中央図書館基本計画(概要)

既

存

サ

の

拡

令和2年8月改定

新県立中央図書館 基本構想 (平成30年3月)

目指すべき姿

① 県民の生涯学習 読書活動の拠点 としての図書館

② "ふじのくに"の ことなら何でも わかる図書館

③ 県内市町立 図書館等を強力に 支援する図書館

4 県民が出会い 交わり、新しい文化を 育む図書館

新県立中央図書館 基本計画 (平成31年3月·令和2年8月)

図書館サービス

- •快適な閲覧環境による資料提供
- •専門的レファレンス、課題解決型支援
- •多様な県民の特性に対応
- •子ども図書館による児童サービス
- •デジタル化・オープンデータ化推進
- •講座・イベント、ネット利用サービス •「葵文庫」など貴重書の常設展示
- •歴史文化情報センターの併設
- 市町立図書館等への支援
- ・県全体の図書館サービスを底上げ •先進的サービスの試行

資料整備計画

- ・既存の収集方針を維持しながら拡充
- 「読書県しずおか」の推進
- •読書推進施策を集約し推進

県民交流と新たな文化の創造・発信

- ・県民が知識と出会い交流する空間
- ・新たな静岡の文化を創出

県民の知のインフラとしての図書館

<施 設>

確かな収蔵能力 200万冊

開架80万冊→日本一規模

利用者のニーズに応じた閲覧環境

研究エリア:静寂な空間を確保、個別閲覧席等 一般エリア:多少の会話を許容、居心地のよい席

誰もが利用しやすいUD対応施設

<サービス>

専門的で高度なレファレンス、課題解決型支援 県内市町立図書館・学校図書館の支援

全点収集の児童書を有する子ども図書館

貴重書展示、豊富な地域資料、県史編さん資料

未来につながる新しいタイプの図書館

~図書館の枠を超えた学び・交流し・創造する場~

多彩な情報との出会いの場

映像・実物・デジタルなど様々なメディアで情報提供 新書・マンガも含めたテーマ別配架で好奇心を刺激

人と人との出会いの場

出会い・交流する居心地のよいサードプレイス

新たな文化の創造・発信の場

県民交流・文化創造を手助けする設備・機能の設置